

第1回日本心臓リハビリテーション学会北海道支部地方会

日 時：平成 28 年 11 月 27 日（日）9：25～15：15

会 場：北海道大学 学術交流会館

（札幌市北区北 8 条西 5 丁目 TEL：011-706-2141）

会 長：国立病院機構函館病院 米澤 一也

■教育講演（11：05～11：45）

座 長：横田 卓

（北海道大学大学院医学研究科循環病態内科学 助教）

「CPX をどう理解し応用するか ～心不全肺疾患骨格筋の関与～」

京都府立医科大学 循環器内科・リハビリテーション部

講師 白石 裕一 先生

■特別講演（12：15～12：55）

座 長：橋本 暁佳

（札幌医科大学病理管理学 准教授）

「わが国における心臓リハビリテーションの現状と将来展望」

国立循環器病研究センター 循環器病リハビリテーション部

部長 後藤 葉一 先生

■シンポジウム

『円滑に心リハを開設・運営するための先行施設からの提言

～これから心リハの立ち上げを考えている皆さんへ～』

座 長：泉 唯史 北海道医療大学リハビリテーション科学部・教授

堀田 大介 社会医療法人北海道循環器病院循環器内科・副院長

基調講演

タイトル：「当院が実践してきた心臓リハビリテーションと今後の課題」

社会医療法人北海道循環器病院

理事長 大堀 克己 先生

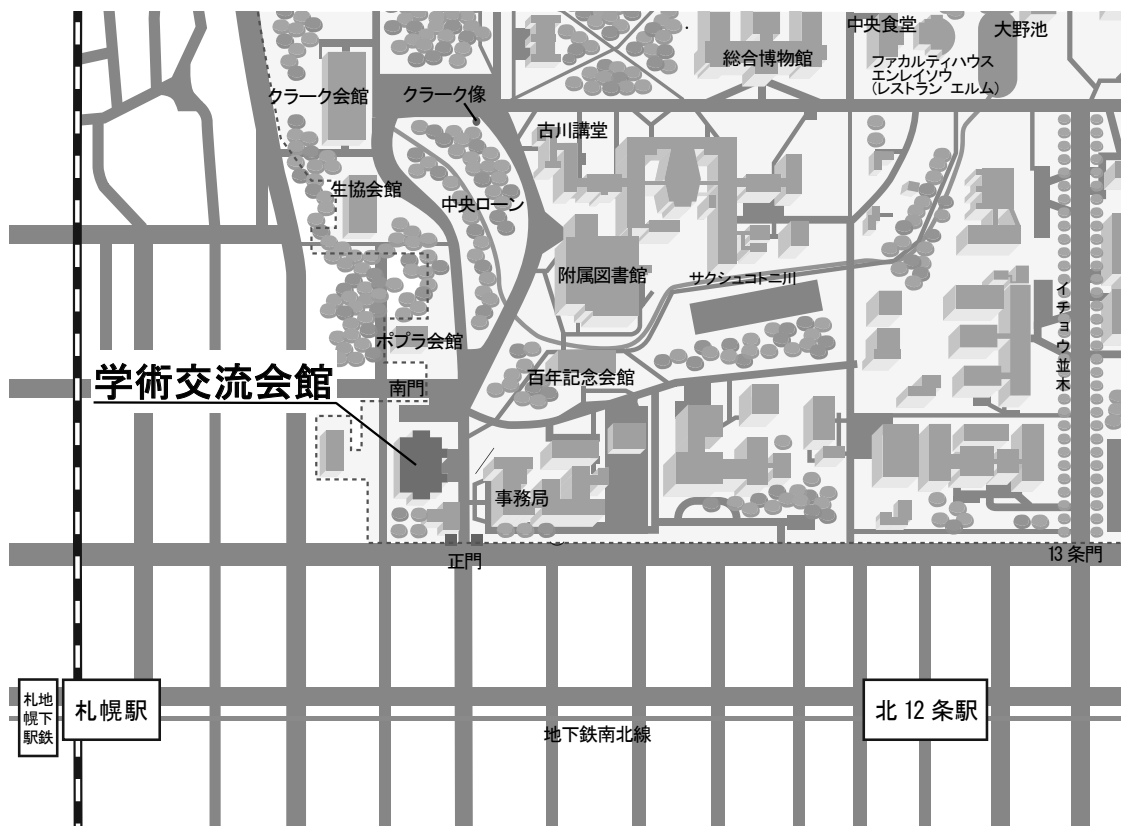


〔参加費〕 医師 3,000円・その他（コメディカルなど）2,000円

〔事務局〕 北海道大学 大学院医学研究科 循環病態内科学 横田 卓・絹川 真太郎

TEL：011-706-6973 FAX：011-706-7874

◆◆◆◆◆ 会場のご案内 ◆◆◆◆◆



会場：北海道大学 学术交流会館
住所：札幌市北区北8条西5丁目
電話：011-706-2141

JR「札幌駅」：徒歩10分
市営交通・地下鉄南北線・東豊線「札幌駅」：徒歩15分
市営交通・地下鉄南北線「北12条駅」：徒歩10分

※学术交流会館には駐車場がありませんので、最寄の公共交通機関をご利用願います

第1回 日本心臓リハビリテーション学会北海道支部地方会
タイムテーブル

	第1会場 小講堂	第2会場 第1会議室
9:25~9:30	会長挨拶	
9:30~10:10	1.高齢者の心臓 リハビリテーション 5×8分	9:30~10:10 2.診断・予測因子 ・バイオマーカー 5×8分
10:15~10:55	3.心リハ連携・ 外来リハビリ 5×8分	10:15~10:55 4.多職種連携・ 術後リハビリ 5×8分
11:05~11:45	教育講演 京都府立医科大学 白石 裕一 先生	
		11:50~12:10 幹事会
12:15~12:55	特別講演 国立循環器病 研究センター 後藤 葉一 先生	
		13:00~13:20 評議員会
13:30~15:00	シンポジウム 基調講演 北海道循環器病院 大堀 克己 先生 指定演題 3×15分	

第1回 日本心臓リハビリテーション学会北海道支部地方会 プログラム

第1会場 小講堂

9:25～9:30 会長挨拶

米澤 一也 (国立病院機構函館病院)

9:30～10:10 一般演題セッション1:高齢者の心臓リハビリテーション

座長:絹川真太郎(北海道大学大学院医学研究科循環病態内科学・講師)

1-1. 高齢心不全患者の自宅退院の可否に影響する因子の検討

独立行政法人国立病院機構 北海道医療センター リハビリテーション科¹

独立行政法人国立病院機構 北海道医療センター 循環器内科²

橋本 雅幸¹ 小原 登¹ 廣田 千香¹ 本間 恒章²

1-2. 経カテーテル大動脈弁留置術施行前後の理学療法により自立歩行が再獲得できた高度大動脈弁狭窄症の一症例

札幌医科大学附属病院リハビリテーション部¹ 札幌医科大学附属病院第二内科看護室²

札幌医科大学附属病院薬剤部³ 札幌医科大学医学部循環器・腎臓・代謝内分泌内科学講座⁴

札幌医科大学医学部病院管理学⁵ 社会医療法人北海道循環器病院循環器内科⁶

清藤 恭貴¹ 片野 俊敏¹ 大堀 克彦^{4,6} 渡辺 絢子² 本間 レミ² 柳瀬 理美² 石郷 友之³

藤戸 健史⁴ 橋本 暁佳^{4,5}

1-3. 高齢心不全患者の心臓リハビリ転帰予測因子に関する検討 (第2報)

医療法人慶友会吉田病院 循環器内科¹ 医療法人慶友会吉田病院 リハビリテーション科²

医療法人慶友会吉田病院 栄養課³ 医療法人慶友会吉田病院 医療相談課⁴

武田 寛樹¹ 林 宏樹² 志賀 佐耶佳² 高野 裕一³ 菊池 孝⁴ 青柳 理恵⁴ 安藤 千尋⁴

河島 佳恵⁴ 佐藤 奈央⁴ 梅津 直樹⁴

1-4. Frailty を呈した心臓外科手術症例に対し術前リハビリテーションが有効であった一症例

市立札幌病院・リハビリテーション科¹ 市立札幌病院・心臓血管外科²

杉浦 宏和¹ 小山 昭人¹ 中村 雅則²

1-5. 糖尿病を合併した外来高齢心不全患者の特徴

北海道大学病院リハビリテーション部¹ 北海道大学大学院循環病態内科学²

阿部 隆宏^{1,2} 横田 卓² 絹川 真太郎²

10:15～10:55 一般演題セッション3: 心リハ連携・外来リハビリ
座長: 堀 享一 (道東脳神経外科病院リハビリテーション部・副院長)

3-1. 外来心臓リハビリテーションの新規登録者の確保に向けた取り組み—外来通院患者に対するアプローチ—

北海道社会事業協会帯広病院スポーツ医学・心臓リハビリテーションセンター¹

北海道大学大学院医学研究科循環病態内科学²

稲垣 諒¹ 角谷 尚哉² 中村 梨沙子¹ 塚田 貴紀¹ 吉田 怜¹ 森 茂樹¹ 吉田 一郎¹

3-2. 心大血管リハビリテーションにおける病・病連携—回復期病院の立場から

函館渡辺病院 循環器内科¹ 函館渡辺病院 リハビリテーション科²

太田 久宣¹ 小坂 敏則² 水関 清¹ 長谷川 正¹

3-3. 当院における心臓リハビリテーションの立ち上げと今後の課題

社会福祉法人 函館厚生院 函館五稜郭病院 リハビリテーション科¹

三木 康寛¹ 赤坂 茂¹ 中釜 郁¹

3-4. 外来心臓リハビリテーション - 継続の有用性

北海道がんセンター 循環器内科¹ 北海道医療センター 循環器内科²

旭川医科大学 循環・呼吸・神経病態内科学分野³ 北海道がんセンター 理学療法室⁴

井上 仁喜^{1,2} 井上 由紀^{1,2,4} 山本 清二¹ 大津 圭介² 菊地 麻美^{1,2} 明上 卓也^{1,2}

藤田 雅章² 竹中 孝² 長谷部 直幸³

3-5. 3軸加速度計を用いた当院外来心リハ患者における身体活動量評価と患者教育の検討

苫小牧市立病院¹

山口 千笑¹ 三上 博也¹ 平田 愛実¹ 堂下 準基¹ 平林 鑑¹

11 : 05 ~ 11 : 45 教育講演

座長 : 横田 卓 (北海道大学大学院医学研究科循環病態内科学・助教)

「CPX をどう理解し応用するか
～心不全・肺疾患・骨格筋の関与～」

京都府立医科大学循環器内科・リハビリテーション部・講師

白石 裕一 先生

12 : 15 ~ 12 : 55 特別講演

座長 : 橋本 暁佳 (札幌医科大学病院管理学・准教授)

「わが国における心臓リハビリテーションの現状と
将来展望」

日本心臓リハビリテーション学会理事長

国立循環器病研究センター循環器病リハビリテーション部・部長

後藤 葉一 先生

13 : 30 ~ 15 : 00 シンポジウム・基調講演

『円滑に心リハを開設・運営するための先行施設からの提言
～これから心リハの立ち上げを考えている皆さんへ～』

座長：泉 唯史（北海道医療大学リハビリテーション科学部・学部長）

堀田 大介（社会医療法人北海道循環器病院循環器内科・副院長）

「当院が実践してきた心臓リハビリテーションと今後の課題」

社会医療法人北海道循環器病院・理事長

大堀 克己 先生

指定演題 1

「心リハ立ち上げ、ブレイクスルー、そしてチーム医療へ」

高橋 将成

市立釧路総合病院心臓血管内科・部長

指定演題 2

「地方病院での心リハの立ち上げ、今後の発展へ」

平林 鑑

苫小牧市立病院循環器内科・医長

指定演題 3

「循環器専門病院でのゼロからの立ち上げから現在まで」

近藤 和夫

北光記念病院リハビリテーション室・課長

第2会場 第1会議室

9:30～10:10 一般演題セッション2: 診断・予測因子・バイオマーカー

座長: 吉田 一郎 (北海道社会事業協会帯広病院循環器内科・副院長)

2-1. 当院糖尿病専門外来における腎症・心疾患合併のリスク管理の現状と展望 ～バイオマーカーを活用した検討～

清和会 南札幌病院¹

森 雄介¹ 加藤 法導¹

2-2. ホルター心電計を用いた運動時の心拍変動解析

社会医療法人社団カレスサッポロ北光記念病院 心臓リハビリテーション室¹

社会医療法人社団カレスサッポロ北光記念病院 循環器内科²

近藤 和夫¹ 皆川 七穂¹ 伊古田 健夫¹ 中山 知美¹ 櫻井 正之²

2-3. 運動負荷試験施行時に心内心電図モニターが有用であったデバイス植込み後の2症例

札幌医科大学 医学部 循環器・腎臓・代謝内分泌内科学講座¹

札幌医科大学附属病院 リハビリテーション部² 札幌医科大学附属病院 臨床工学部³

北海道循環器病院 循環器内科⁴ 札幌医科大学 医学部 病院経営・管理学⁵

札幌医科大学 保健医療学部 理学療法学第二講座⁶

藤戸 健史¹ 永原 大五¹ 望月 敦史¹ 斉藤 礼¹ 片野 俊敏² 清藤 恭貴² 高橋 泰仁³

大堀 克彦^{1,4} 橋本 暁佳⁵ 片寄 正樹⁶ 三浦 哲嗣¹

2-4. 当院における急性心筋梗塞患者のリハビリテーションの現状

市立函館病院 リハビリ技術科¹ 市立函館病院 看護局 看護科²

市立函館病院 リハビリテーション科³ 星城大学 リハビリテーション学部⁴

竹田 昌広¹ 村島 範政² 宮地 隆行¹ 加藤 航¹ 高野 浩輔¹ 川村 昌嗣¹ 山下 康次¹

長谷川 千恵子³ 林 久恵⁴

2-5. 心不全を合併した高齢の入院患者では、6分間の歩行距離が短いと再入院率が高く予後が不良

延山会 西成病院¹

吉江 浩光¹

一般演題セッション4: 多職種連携・術後リハビリ
座長: 福島 新 (北海道大学病院循環器内科・医員)

4-1. 当院における心臓リハビリテーションプログラムへの理学療法士介入の効果

独立行政法人国立病院機構函館病院リハビリテーション科¹

独立行政法人国立病院機構函館病院循環器科²

独立行政法人国立病院機構函館病院看護部循環器病棟³

野田 一樹¹ 米澤 一也² 雪野 碧² 三木 恵子³ 佐々木 孝夫¹ 庄司 哲之¹ 高村 裕也¹
山本 憲希¹ 遠藤 雪絵¹ 吉田 実華子¹

4-2. 病棟薬剤師の介入により吸入肺高血圧治療薬の円滑な導入が可能であったアイゼンメンジャー症候群の1症例

札幌医科大学附属病院 薬剤部¹ 札幌医科大学 医学部 循環器・腎臓・代謝内分泌内科学講座²

札幌医科大学附属病院 リハビリテーション部³ 札幌医科大学附属病院 第二内科看護室⁴

社会医療法人 北海道循環器病院 循環器内科⁵

石郷 友之¹ 橋本 暁佳² 片野 俊敏³ 清藤 恭貴³ 柳瀬 理美⁴ 本間 レミ⁴ 渡辺 絢子⁴
松本 由希子⁴ 藤戸 健史² 大堀 克彦^{2,5} 宮本 篤¹ 三浦 哲嗣²

4-3. 心臓リハビリテーション実施中に両心室ペーシング機能付き植え込み型除細動器の除細動が作動した症例の経験

北見赤十字病院 医療技術部 リハビリテーション科¹ 北見赤十字病院 循環器内科²

本間 傑¹ 森 博子¹ 庄司 寛¹ 本居 昂² 多田 篤司² 徳原 教² 小野 太祐²
斎藤 高彦²

4-4. CABG 後再燃した狭心症に対して PCI 施行後の心リハが虚血評価に有用であった一例

医療法人 社団 SSJ 札幌整形循環器病院¹

石橋 宗大¹ 國生 泰範¹ 尾崎 威文¹ 宮本 齊¹

4-5. 術後心臓リハビリが遷延し、運動耐容能改善に時間を要した一例

勤医協中央病院 リハビリテーション部¹ 勤医協中央病院 心臓血管センター²

山口 恭人¹ 幕内 智子² 伴 正博¹ 鈴木 隆司²

一般演題の演者の皆様へ

1. 一般演題の発表時間は1演題につき **8分(発表5分, 討論3分)** です。演題上に計時装置が設置してあります。発表1分前に黄色、終了時に赤色の警告ランプが点灯します。**時間厳守でお願いいたします。**
2. 口演発表は PowerPoint と液晶プロジェクターを用いた発表のみとさせていただきます。
3. 発表用の PC (Windows7) は事務局で用意します。事務局にて準備する PC のアプリケーションは PowerPoint2007, PowerPoint2010, PowerPoint2013, PowerPoint2016, 解像度は 1024×768 です。
4. 発表用のデータをメディアでお持ちいただく場合は、CD-R もしくは USB フラッシュメモリーでお願いします。データは必ずバックアップをご準備下さい。お預かりした発表データは、発表終了後消去いたします。
5. 発表を円滑に行うため、なるべく事務局の PC に発表用データを入れてご使用下さい (Macintosh の場合、動画などがある場合を除く)。
6. 発表者ツールのご使用は出来ません。
7. PowerPoint のデータ作成においては、Windows 標準フォント (MS ゴシック、MS 明朝等) をご使用下さい。それ以外では、正しく表示されない場合があります。
8. アニメーション、動画の制限はありませんが、PowerPoint に貼り付けている動画や音声は、Windows Media Player で再生できるよう作成して下さい (拡張子.wmv) 推奨。
9. PowerPoint のファイルと動画のファイルは必ず同じフォルダーにお入れ下さい。
10. お持込のデータによるウイルス感染の事例がありますので、最新のウイルス駆除ソフトでチェックして下さい。
11. 持ち込まれるメディアには、当日発表されるデータ以外入れないようにして下さい。
12. **セッション開始 20 分前までに PC 受付にて、データ・コンピュータ受付及び確認を必ず行って下さい。**
13. 前発表者が登壇後、直ちに**次演者席**にお着き下さい。

PC 持込の際の注意

1. 発表データが **Macintosh の場合**は、必ず PC 本体と附属の AC アダプター、モニタ出力用変換アダプターをお持込下さい。
2. 会場で用意する PC ケーブルコネクターの形状は D-sub15 ピンです。一部の薄型ノート PC で、モニタ出力端子が D-sub15 ピンでない物があります。別売りのアダプターを必ずご用意下さい。
3. スクリーンセーバーおよび省電力設定は予め解除して下さい。
4. PC にパスワードが必要な場合はオペレータにその旨伝え、事前に解除をお願いします。
5. 万一のトラブルのため、バックアップのご用意をお願いします。